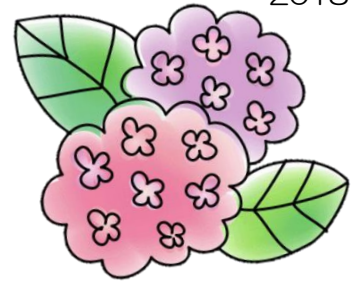


# あじさい



## 札幌4支部合同助産師職能研修会 平成30年10月13日(土)

平成30年10月13日(土) 読売北海道ビルACU-Yにて、札幌4支部合同助産師職能研修会を開催しました。北海道大学病院 産科・周産期センター副センター長 森川 守先生をお招きして、初回更新が2年後に迫る『CLoCMiP®』関連研修をテーマに、前半は「子宮収縮剤の使用と管理」(参加91名)、後半は「分娩期の胎児心拍数陣痛図(CTG)に関する研修」(参加88名)の二部構成で講義をしていただきました。

子宮収縮薬については、産婦人科診療ガイドライン産科編2017より注意すべき点が明確になり、分娩誘発の際の注意点を学び直しました。

分娩期の胎児心拍数陣痛図に関する研修では、プレテストの中で実際にCTGを判読しレベル分けすることで、自分が間違えやすい所見について再認識し、判読トレーニングができました。

どちらの講義内容も日々臨床で行われており助産師には馴染み深いものですが、陣痛促進剤は使い方を誤ると取り返しのつかない事象を引き起こしたり、CTGは的確に判断できないと児に危険が及ぶことから、正しい知識を自施設に持ち帰ることができる具体的な内容となりました。アンケートからは「今まで曖昧だった部分が根拠をもってできるようになると思う」と大変好評でした。



## 札幌 4 支部合同保健師職能研修会 平成 30 年 10 月 20 日(土)

平成 30 年 10 月 20 日、ANA クラウンプラザホテル札幌にて一般社団法人センターポール理事、堀江 航氏を講師に迎え「パラアスリートの軌跡～東京 2020 おもてなし・実は裏アリ」を開催しました。参加人数は 5 名でした。プロ車いすバスケットボール選手としてアメリカをはじめ、ヨーロッパ各地で活躍された時の体験談や平昌オリンピックのお話をして頂きました。

様々な人種や文化がある欧米では、障がいは個性の一つという捉え方であり、障がい者への

壁がないことがスタンダードであり、日本との違いを感じました。日本にはまだ障がいへの偏見が少なからず残っており、本当の意味でのおもてなしになっていない事に気が付きました。講師の堀江氏の生き生きとした表情が印象的でした。医療者という視点だけではなく、文化的活動、スポーツの領域など社会環境や障がいへの理解の在り方も含め、考えさせられる講演となりました。



### 平成 31 年度 札幌第 2 支部大会

開催日:平成 31 年 2 月 16 日(土)

時間:14:55～15:45

会場:札幌ビューホテル大通公園

※参加は札幌第 2 支部会員に限ります。  
交流会のみの参加はご遠慮申し上げます。

おしせ

### 支部大会同時開催 三職能合同交流会

テーマ:「40 歳代からの不調に  
どうかかわる?どう付き合う?」

講師:女性の健康を支援するハイジア  
佐藤 みはる先生

時間:13:05～14:40



### 《 編集後記 》

年の瀬も押し迫り、会員の皆様もお忙しい毎日をお過ごしのことと思います。今年、大雨や 9 月の胆振東部を震源とする巨大地震、それに伴って北海道全域のブラックアウトがありました。停電になると、都市機能だけではなく、命を守る医療機関の機能が麻痺することを痛感させられました。近年看護協会でも災害研修が盛んに行われております。会員の皆様にも是非ご参加いただき、今後の活動に役立てていただければと思います。我々広報出版委員も会員の皆様のお役に立てられるような情報を発信するため力を尽くしますので、よろしくお願いいたします。

広報出版委員

N・M

